別表第１　評価領域及び行動プロセスに関する着眼点
※「着眼点」は、職務を遂行する上で通常必要とされる水準を例示したものである。

高等学校教諭（講師含む）

評価領域		着眼点
Ⅰ　教科指導等	指導計画の作成・改善	・生徒の実態や教科・科目等の系統性を踏まえた年間指導計画等を作成している。 ・授業の充実を図るため、常に教材研究に努めている。 ・学習指導要領を踏まえ、適切な指導目標を設定している。 ・適切な指導計画のもと、年間を通じて計画的に授業を進めている。
	学習指導と評価	・生徒の実態に即した指導が行われ、学習状況の把握、支援などが適切である。 ・教科・科目に関する専門的知識･技能が発揮され、生徒の理解を促進している。 ・生徒一人一人の学習状況を把握し、学力向上のための支援を行っている。 ・指導と評価の一体化が図られ、学習指導の工夫・改善に努めている。
Ⅱ　学年・ＨＲ経営・生徒指導等	学年･ホームルーム経営、生徒指導、進路指導、特別活動等	・教員間で学年運営上の課題を共有するなど、相互理解に努めている。 ・教育相談的な対応に心がけ、生徒理解に努めながら適切な生徒指導を行っている。 ・生徒の実態に応じ、進路選択ができるよう適切に支援している。 ・学校・学年行事等を通じて、生徒の自主性・自律性を育てる指導を行っている。 ・家庭や地域と情報交換を行い、連携して指導している。
Ⅲ　その他の校務等	校務分掌等	・校務分掌の意義や自らの役割を理解し、適切な活動を展開し、責任を果たしている。 ・分掌等の課題について改善策を示すなど、学校運営に参画している。 ・保護者や地域と連携し、開かれた学校づくりを推進している。 ・教育公務員として、高い自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動をとっている。
チームワーク行動		・日常的に円滑なコミュニケーションを取りながら、キャリア段階ごとに期待される行動を行っている。